

## <令和7年6月11日（水） 教育長定例会見>

### <教育DXで学びを支える環境づくり>

#### デジタル採点システムの導入におけ

定期テストの結果は、生徒にとって気になる大事なもの。また、教員にとっても、早く正確な採点を返したい思いが強い業務です。そこで、令和5年度から、デジタル採点システム導入の実証を開始。

令和6年度までに複数のシステムを検証し、「操作が直感的で分かりやすい」「採点を効率化する機能が充実している」「生徒への迅速なフィードバックができる」等、業務の質と効率がより向上したとの結果が得られたため、令和7年度から、全県立学校でデジタル採点システムを導入しました。

#### デジタル採点システムでイノベーションを

デジタル採点システムの導入で、採点時間が約50%～75%の削減に成功。採点後の成績はデータ化され、答案用紙と分析表が、短時間で各生徒の端末に送信されます。

分析表では、各設問の配点と得点が表示され、平均点とも比較でき、得意分野と苦手分野の把握が可能になりました。また、「あなたの実力であれば正解できる問題が10問あります、必ず復習しておきましょう」といったコメントも出てきます。素早いフィードバックと分析データにより、主体的な学びにつながります。

教員にとって、クラス全体の理解度が分かり、指導法の見直しにもつながります。採点時間が削減されることで、子どもと向き合う時間が増え、質のよい授業や指導が可能になります。また、教員自身のワーク・ライフ・バランスも確保し、持続可能な教育活動の実現につなげたいと考えます。

### <大学生教職体験プログラム>

#### 教員の魅力、もっと発信プロジェクト

先生確保のため、3つの柱で取り組んでいます。

- ・教員採用試験の改革
- ・丁寧なサポート体制の構築
- ・教員の魅力発信

この棒グラフは、教育学部の卒業者数と教職に就いた人数を年ごとに表した文部科学省の調査結果。教員になる割合は6割で、横ばいが続いています。

円グラフは、教員生活の充実度を点数で表した民間の調査結果。全体の65%の方が、

70 点以上と回答し、教員生活への充実度が高いと感じています。

そこで、教育学部卒業しながら教員にならなかった 4 割の人に、教員の魅力を届けた  
いと考えました。プロジェクトの狙いは、大学 1 年生という早い段階から、教育学部以  
外の学生にも教員の魅力に触れてもらい、佐賀県で教員になりたい人を増やすこと。

### 先生になろう、ここ佐賀で

今年度から、「大学生教職体験プログラム」を実施します。

対象は、教員に興味のある大学 1 年生と佐賀県教員採用試験 3 年生チャレンジ受験合  
格者。学校現場で、生徒の学習活動のサポートや教員との座談会を通して、教員の魅力  
を体感してもらいたと考えています。

実施校は、香楠中学校・鳥栖高等学校、唐津東中学校・唐津東高等学校の中間一貫  
校の 2 校。

また、昨年度から県内移住希望者への「佐賀県教員採用オンライン説明会」を実  
施。社会経験を積んだ経験豊富な方に、学校現場に来てもらいたいと思います。

この説明会では、移住支援制度や佐賀の暮らしやすさ、秋選考試験の案内、現役教  
員とのリアルトークを予定しています。

### <全国産業教育フェア佐賀大会>

全国の専門高校生の学びの祭典「全国産業教育フェア さんフェア SAGA2026」を令和  
8 年に佐賀県で初めて開催します。この大会は、産業教育（農業、工業、商業、家庭、  
福祉など）を学ぶ高校生、特別支援学校生の学習成果の発表の場。

期間中は、技術や技能を競い合う各種コンテスト（クッキング、フラワーアレンジメ  
ント、介護技術、ロボット競技、ビジネスアイデアコンテストなど）を開催。

また、来場者が楽しめる参加型体験ブース、全国高校物産展、ファッションショーも  
あります。全国の高校生、地域住民や小・中学生も来場する 6～7 万人規模の一大イベ  
ントを SAGA アリーナと周辺施設で開催します。

大会メインビジュアル、キャッチコピー、大会ロゴデザインが決定しました。

メインビジュアルは、有田工業高校 宇藤さんの作品。佐賀らしいものが、気球に乗  
って空高く昇っていく様子を「佐賀の産業」の発展と重ね合わせ表現されています。

キャッチコピーは、うれしの特別支援学校 森永さんの「つなげよう産業のバトン！  
佐賀から維新をふたたび！」。明治維新时期、佐賀は産業や技術面で日本を支え、リード  
しました。令和になり、「自分たちがその志のバトンを受け取り、先へつないでいく」  
という高校生の意気込みを表しています。

大会ロゴデザインは、有田工業高校デザイン科の卒業生で、県内でデザイナーとしてご活躍の小松大介さんが制作。佐賀の人・自然・伝統の豊かさが凝縮されたデザインです。

大会を支え、盛り上げる生徒実行委員会が令和7年3月に発足。8月には、さんフェア プレ大会を SAGA ものすごフェスタと連携し開催します。キャラクターのあさぎちゃんと生徒実行委員会のステージイベント、企業体験カードゲーム、ろくろ体験、フラワーデザイン、ロボット競技大会などを企画。

さんフェアは、高校生はもちろん、小・中学生にも将来なりたい職業や夢を描くきっかけになる大会です。

### <スクールレポート>

#### 神埼清明高校～「動ける」人を育てる、未来志向の学びの学校～

神埼清明高校は、総合学科の高校。幅広い選択科目の中から、生徒が希望進路に合った科目を選んで学びます。6つの系列の中から、生活福祉系列の取組を紹介します。

福祉に関する制度や介護の知識・技術を学び、自ら動ける人を育てるのが、同校の考え方。生徒が地域の福祉課題に対し、自分たちで考え・企画・準備・実施します。例えば、認知症理解の出前講座の開催、高齢者が楽しめるレクリエーションなどを年間30回以上実施しています。

「社会保障教育プロジェクト」は、若い方々に社会保障制度のことを分かりやすく伝える活動。「15歳からの社会保障」の著者 横山北斗氏と連携し、カードゲームで社会保障を分かりやすく学び、伝える取組です。日常生活でピンチに見舞われたときに使える社会保障制度や相談窓口を知っていれば、苦境から抜け出すことができます。

昨年度は、横山さんが手がけるカードゲームの開発に協力。小・中学生に伝える立場から改善案をフィードバックしました。今年度は、新しく完成したカードゲームを使い小・中学校への出前授業を行う予定です。

このような生徒の活躍を支えるのが、社会福祉士の国家資格を持つ名物先生チーム。知識のみならず、現場のリアルを伝える授業で、介護福祉士合格率100%を5年連続達成。

福祉を学んだ生徒が、学ぶ側から伝える側へと踏み出し、社会を変える力につながっていく。そんな教育に挑戦し続けます。

#### 牛津高等学校 全国でも珍しい家庭科単独の専門高校

服飾デザイン科、食品調理科、生活経営科があり、衣・食・ヒューマンサービスのスペシャリストを育成する学校。

また、なぎなた部、ジャンベ部、男子ソフトボール部、佐賀錦部といった特色ある部活動があり、棚田の保全活動や小・中学生向け家庭科の出前講座など地域貢献活動も盛んです。

注目は、佐賀新聞社とのコラボ企画「佐賀の新グルメ開発プロジェクト」。高校生の自由なアイデアと生成AIを使い、新グルメの開発に取り組んでいます。

5月末の6回目ワークショップで、「海苔を使ったタコス風料理」と「抹茶を使ったデザート」に決定。次回ワークショップで試作品を作りプロのアドバイスを受け、7月にレシピが完成する予定です。

## <トピックス>

### 対面やオンラインによる高校進学説明会を開催中！

対面の高校進学説明会は、県内3か所が終了し、今週末に唐津と小城で開催。最大で31校が集まります。予約不要、服装は自由。事前予約制の個別相談会もあります。

オンライン高校説明会も実施。各校とも工夫を凝らした動画を公開中。県立、私立、高等専修学校合わせて52校の情報が揃っています。

5月に福岡と長崎で、出張PRを開催。7月には、大阪と東京である移住イベントに、高校PRブースを出展します。全国募集を行う有田工業高校や唐津清翔高校の教育内容や学校行事を紹介し、住まいの相談も受け付けます。

### 2年後に県立盲学校教諭を海外協力隊として派遣します

JICA、県国際交流協会、県教育委員会では、3者連携の覚書を締結し、2年後の派遣に向けて準備や調整を進めます。

派遣国のセントルシアは、視覚に障害のある方の社会参加、自立支援の態勢づくりが進められています。そのきっかけをつくったのが、県国際交流協会の黒岩理事長。

派遣者は、理療科の先生2名。派遣期間は、9年度から10年度に1名、11年度から12年度に1名。指圧師の養成、現地指導者の育成に当たります。

また、オンラインで、日本の児童・生徒との交流や情報交換を行い、多文化共生への理解に貢献いただきます。